

師ら支援に 6 万人署名.平成 19 年 2 月 19 日

<http://www.asahi.com/life/update/0219/014.html>

(8) 田代志門. 研究と診療を区別する二つのモデル ヘルシンキ宣言からベルモント・レポートへ. 医学哲学 医学倫理 25;21-29, 2007

(9) 独) 製品評価技術基盤機構. 人間生活福祉分野、製品安全・事故情報. <http://www.jiko.nite.go.jp/>

(10) 日本肝移植研究会. 肝移植症例登録報告. 移植 38:401-408, 2003

(11) 日本肝移植研究会ドナー調査委員会. ドナーアンケート特別報告. <http://jlts.umin.ac.jp/index.html>

(12) 絵野沢 伸. ヒト胎児組織・細胞の研究利用に関する現状と問題点の抽出. Organ Biology 12(2); 155-166, 2005 [http://www.nch.go.jp/MONTHREPT/bunken/enosawa12\(2\)05.pdf](http://www.nch.go.jp/MONTHREPT/bunken/enosawa12(2)05.pdf) (国立成育医療センター研究所ホームページマンスリーレポート 2005 年 8 月サイトからリンク)

(13) 西川伸一. 生命倫理問題と価値多元主義 議論のあり方を問う. 科学 77(8); 857-861, 2007

(14) 玉井真理子. ヒト胎児組織の供給システムのあり方と胎児組織提供コーディネーターの役割に関する研究 (H15-再生-022). 厚生労働科学研究平成 15 年度総括報告書. 同平成 16 年度総括報告書、同総合研究報告書

(15) 後藤正治. ふたつの生命ー心肺移植を待ち望んでー. 岩波書店 1997 年

(16) 柳田邦男. 『犠牲』への手紙. 文藝春秋 2001 年

(17) 武田克江. 願いが叶うなら. 劇症肝炎と闘った娘・茉奈実の四七〇日間. 幻冬舎文庫 平成 20 年

F. 健康危険情報

該当なし。

G. 研究発表

1. 論文発表

1) 絵野沢 伸. 中国における移植不適合肝の研究利用とそこから見えるものー 上海市の Research Institute for Liver Disease を訪問して. 特集; 中国における臓器移植の現状. 日中医学 22(1); 3-6, 2007

2) 絵野沢 伸. 市民アンケートに見る再生医療への期待と不安. Organ Biology 14(2):109-117, 2007

3) 絵野沢 伸. 米国の移植臓器調達のシステム形態と経済的基盤. Organ Biology 14(2):163-171, 2007

4) 絵野沢 伸. 再生医療への期待と不安ー市民アンケートの結果からー. ヒトゲノム・再生医療等研究推進事業 先端医学研究等普及啓発セミナー 「再生医療はどこまで進んだか、更に発展させるには何が必要か？」 pp103-115, (財) ヒューマンサイエンス進行財団 平成 19 年 1 月発行

5) 絵野沢 伸. ヒト胎児組織・細胞の研究利用に関する現状と問題点の抽出. Organ Biology 12(2);155-166, 2005

6) 絵野沢 伸. ヒト組織を研究利用するためのインフォームド・コンセントのあり方. 臨床薬理 36(3);123-124, 2005

7) 絵野沢 伸. トピックス. 生体肝ドナー調査. Organ Biology 12(1);73-77, 2005

2. その他の発表

1) 絵野沢 伸. (問題提起) 研究対象者保護法

- 07 試案を読んで. 生命倫理政策研究会・第
87 回くすり勉強会 共催シンポジウム
2007 年 7 月 7 日 東京
<http://homepage3.nifty.com/kinmokusei04/070707sympo-material/no14.pdf>
- 2) 絵野沢 伸. 医薬品原材料としての生物由来物質の現状. シンポジウム I. 生体材料の医薬品開発. 第 34 回日本臓器保存生物医学学会学術集会. 平成 19 年 11 月 16-17 日 札幌
- 3) 絵野沢 伸. 患者、患者家族のリスクマネジメント. 医療の質・安全学会第 2 回学術集会. 平成 19 年 11 月 23-25 日 東京
- 4) 絵野沢 伸. バイオインフォマティクスと再生医療. 近畿大学生物理工学部 大学院インターフェース分野特別講義 平成 20 年 1 月 17 日 和歌山県紀ノ川市
- 5) 絵野沢 伸. (講演) 人由来組織の医療、研究、創薬の視点からみた利用の現状について. 第 124 回ヒューマンサイエンス振興財団研究資源委員会. 平成 18 年 4 月 21 日、東京
- 6) 絵野沢 伸. (講演) 再生医療研究をめぐる科学コミュニケーション. 第 1 回科学コミュニケーション研究会. 工学院大学新宿校舎 (林真理研究室主催) 平成 18 年 7 月 27 日
- 7) 絵野沢 伸. (講演) 再生医療への期待と不安 市民アンケートの結果から. 先端医学研究普及啓発セミナー (ヒトゲノム・再生医療等研究推進事業) 平成 18 年 8 月 3 日 (大阪)、8 月 23 日 (東京)
- 8) 絵野沢 伸. (新聞記事) ES 細胞使った再生医療、根強い慎重論. 平成 18 年 8 月 4 日 読売新聞朝刊 2 面
- 9) 絵野沢 伸. (新聞記事) ES 細胞研究に市民の 4 割慎重. 平成 18 年 8 月 7 日日本経済新聞朝刊 19 面
- 10) 絵野沢 伸. (学会発表) 再生医療市民アンケートの結果から一必要とされる臨床研究のしくみについて一. 第 6 回日本再生医療学会総会 2007 年 3 月 13 日、14 日 パシフィコ横浜、横浜
- 11) 絵野沢 伸. (学会発表) 医学研究における人由来組織の必要性. ワークショップ 2. ヒト由来資源の応用. 日本生命倫理学会第 17 回年次大会、東京 平成 17 年 11 月 19-20 日
- 12) 若林 正、絵野沢 伸、小林英司. 医学研究における「既存試料」の取扱いに関する一般市民の意識. (学会発表) 第 4 回日本再生医療学会総会、大阪 平成 17 年 3 月 1-2 日
- G. 知的財産権の出願・登録状況
なし